🚀 Bitcoin Weekly Forecast ⚡

ビットコイン週刊フォーキャスト

ビットコイン9万ドル割れは不可避か？（2025/02/06）

徐々に失速するビットコイン

2月に入り、ビットコインは102,000ドルから92,000ドルの間で推移するレンジ相場が続いています。

特に、2月3日にトランプ大統領がメキシコや中国からの輸入品に関税を課すという政策を発表した影響で米国株が下落。その余波を受けてビットコインも92,000ドルまで値を下げました。

1月30日の予測では、90,000ドルから110,000ドルのレンジ内で推移しつつも、中長期的には資金流入が続くとの見解を示しました。

しかし、その後の市場動向を見ると、ビットコインが最高値を更新する期待感は薄れ、市場全体が一時的な調整局面に入った印象です。

現状では、再度90,000ドルを割り込む可能性が高まっている点について掘り下げていきます。

100,000ドル上での利益確定と市場動向

以下のチャート（挿入予定）は、ビットコインとユーロドルの価格推移を比較したものです。

このチャートから明らかなように、ビットコインは2月4日に100,000ドルを超えた際、大量の利益確定売りが発生し、価格が下落しました。一方でユーロドルは上昇を続けており、この期間中ビットコインは相対的に弱含みとなっています。

また、同時期にナスダック100指数が堅調に上昇していることからも、ビットコインは「一人負け」の状態にあると言えます。

理由の一つには、やはりトランプ大統領に期待し過ぎていた市場が冷や水を被せられた格好となっていることが影響しているかもしれません。

———
参考記事要約：トランプ政権開始でビットコインは不穏な空気？

大統領選後、「国家ビットコイン準備金」構想への期待から市場は活気づき、12月18日には108,000ドルの最高値を記録。しかし実際の政策では「$TRUMP」ミームコインの発行など、投機的な動きが目立ちました。

市場はトランプ政権に対する過度な期待も懸念も薄れ、より現実的な評価に落ち着きつつあるようです。
———

先物曲線と長短金利差の影響

次に注目すべきは先物曲線の動向です。2025年以降の先物価格を見る限り、オールタイムハイ（史上最高値）を目指す兆候は見られません。先物市場では将来価格への期待感が薄れていることが明らかです。

さらに注目すべきは米国長短金利差（逆イールド）の進行です。通常、この逆イールド現象はビットコイン価格の上昇材料となることが多いですが、現在は逆イールドが進む中でもビットコイン価格は下落傾向にあります。

このような状況は、市場心理として「下落材料が出た際には急激な値下げにつながる」リスクを示唆しています。

今後の下値目安

では、ビットコイン価格がどこまで下落する可能性があるのでしょうか？

- CME先物窓埋め水準：77,500ドル
- 直近の抵抗線：74,000ドル
- レンジ：90,000ドルから20,000ドル幅で下落した場合、70,000ドル

これらを総合すると、一旦70,000ドル付近までの下落リスクを視野に入れておくことが現実的と言えるかもしれません。

市場占有率と資金流動性

2月に入り、ビットコインの市場占有率は急上昇しています。しかしながら価格自体は上昇しておらず、この現象はアルトコイン市場から資金が抜け始めていることを示唆します。

一方でUSTテザー（USDT）の発行残高は増加傾向を維持しており、法定通貨から暗号通貨への資金流入や、一時的な利確後も資金が市場外へ完全に流出していないことが分かります。

これらの状況を見る限り、一旦調整局面を迎えた後には反発（バウンド）が期待される展開になる可能性があります。市場全体として「ガス抜き」が進んだ後には、新たな上昇トレンドへの転換点となることを期待したいところです。

まとめ

現状、ビットコイン市場は調整局面にあり、一時的な下落リスクも視野に入れる必要があります。ただし、中長期的な資金流入や市場占有率の動向を見る限り、大きな反発への可能性も残されています。

引き続き慎重な姿勢で市場動向を注視しつつ、現時点では「焦って高値掴み」とならないよう、「待ち」も一つの選択肢になると考えます。

引き続き、楽しんでいきましょう！